

ホットラインから見えてきた課題

第2章

◆ 地域で孤立し子育ての情報交換もできない

*親同士の情報交換やおしゃべりの中でも解決できそうなことがらであっても、「子どもの些細な問題にもうろたえてしまう」「親が思うような子どもでいてくれない」と、親が一人で深刻に悩んでしまう実態がある。

*学校で「心配ない」と言われても信頼できない、夫が子育てに協力してくれない、海外での子育てなど、孤立した状況での子育てを強いられている。

ホットラインの声から・・・

□中学入学後友だちの影響で子どもがゲームをやるようになった。普段の生活は、学校、部活をやり、家では宿題もやっており、成績は上位3分の1に入る。しかし、ゲームの時間が長い。視力への影響やのめりこみ過ぎないか心配。(母親からの相談)

□小学低学年の子どもが同性の友だちと遊ぶことができない。たまに特定の同性の子と遊ぶが、継続的に遊ぶ友だちはいない様子。ついつい、子どもが帰宅すると「今日は誰と遊んだの？」などと聞きすぎてしまう。学校の先生に相談したが、「心配ない」と言われるだけ。(母親からの相談)

見えてきた課題

◆核家族化や地域における人間関係の希薄化が進み、子育て中の親も孤立化している。乳幼児だけでなく、小中学生の親が気軽に子育ての話ができる場やつながりづくりが求められる。

◆ 親が安心して愚痴や不満を出せる相談相手が周りにいない

＊子どもに関する悩みがあっても、学校に伝わってしまうことが心配で友だちの親同士の間でさえも話せない状況がある。学校に相談してもじっくり話を聴いてもらえないと感じている。

＊「子どもがかわいいと思えない」「子どもにイライラをぶつけてしまう」といった親として否定的な感情を知られたくない、非難されるのが怖いといった気持ちがあるので、なかなか相談できないでいる。

ホットラインの声から…

□小学 5 年の子と馬が合わず、好きになれない。ご飯をこぼしたり、服を脱ぎっぱなしにしたりする。注意をしても聞き流す。つい、カーツとなってたくさん小言を言うか、無視してしまう。地域に相談機関があることは知っているが、相談はしていない。(母親からの相談)

□子どもの成績表に「もう少し」がついた。子どもが落ち込んでふさぎこんでしまった。親としてもショック。小学 3 年生で「もう少し」がつくなんて、これから先どうになってしまうか、心配。クラスのママ友だちは学校とべったりなので、学校への不満は口に出せない。モンスターペアレントと思われるも困る。(母親からの相談)

見えてきた課題

◆親自身の気持ちや悩みや迷いに対し、ていねいに話を聴き、受け止め、支えてくれる存在が求められている。

◆ 問題関係のプロセスで、親と、学校・子どもの支援機関が 対立関係に陥ってしまう

*いじめなどの問題が起きたときに、学校の対応に納得できなかったり、問題がこじれて信頼できなくなったりするなど、学校と親が対立関係に陥ってしまった場合、問題解決に向けた動きが取れなくなっている。

*子どもの支援機関は子どもの利益や保護を最優先に介入することが当然に必要であるが、親にとっては、自分の子育てを否定されたような気持ちになったり、親自身の気持ちを受け止めてもらえないという不満になりがちである。

ホットラインの声から…

□仲の良かった友だちから言葉の暴力があり、それ以降登校できない。医療機関を受診し、うつ病との診断があった。診断書を学校に出し、校長先生と話をしたが、加害者寄りの発言があり、信頼できない。(母親からの相談)

□施設入所を勧められているが、一時保護されているADHD(注意欠陥・多動性障害)の子どもを引き取りたい。でもその後の生活がうまくいくか自信がない。(母親からの相談)

見えてきた課題

- ◆対立関係がエスカレートしないように、中立的な第三者が関わる仕組みが求められる。
- ◆子どもの支援機関とは別に、親の立場に寄り添える機能が必要とされている。

ADHD(注意欠陥・多動性障害)とは…

①注意力の障害(集中できない、必要なものをよくなくす、予定を忘れるなど)、②多動性(じっとしてられない、常にそわそわ動いている、など)、③衝動性(考えるより先に動く、順番を待つことが苦手、人の会話に割り込む、など)を特徴とし、知的遅れはほとんどみられない。

◆ 親自身が障害や病気などの問題を抱えている

◆ 夫婦関係や家庭に問題を抱えている

* 親自身に障害や病気があったり、人間関係や仕事などで疲労している。

* 子どもの相談をきっかけにしながら、実は夫婦関係が悪かったり、親が孤立していたりする状況を訴えている。

ホットラインの声から・・・

□ 小学校就学前の子どもが3人いるが、一緒に過ごすことが苦痛。夫とは価値観が合わず、会話もない。離婚や親権の話が出ており、そのことでイライラして子どもにあたってしまう。(母親からの相談)

□ 小学校低学年の子どもがいる。夫はずっと仕事を理由に子育てに協力してくれず、自律神経失調症と言われた。子どもは、自分の子どものころとは性格も違い、家では夜尿があるなど手がかかる。最近自分自身が手術を受けたこともあり、いろいろ抱えきれなくなり、円形脱毛になるほど苦しい思いをしているのに、誰もわかってくれない。(母親からの相談)

見えてきた課題

◆ 子どもに問題が起きる背景には、家庭内に問題を抱えている場合がある。子どもの問題と親の問題は切り離しては解決しにくい。

◆ 「子どもに関する相談」という形をとって、親自身の悩みの相談となっている。

◆ 子ども自身が障害や病気などを抱えている

- * 子ども自身に発達障害など障害や病気がある場合、子どもとの関わりが難しかったり、子どもと周囲との関係に気を使い思い悩んだりして、親により大きな負担がかかっている。
- * 同じような状況の子どもが周囲にいないと情報交換することもできず、親子で孤立してしまう。
- * 発達障害や軽度の知的障害の子どもは通常の教育と障害児教育の間で取り残されている。

ホットラインの声から…

- 双子の中学生の子どもがおり、二人とも発達障害や自閉症などがある。小学校のころから先生や子どもの友だちに理解してもらえず、いじめが原因で不登校になった。現在は身障学級に通学しているが、不登校気味。親としても疲弊している。(母親からの相談)
- ADHD(注意欠陥・多動性障害)の中学生の子どもが特別支援で通級している。子どもは、IQは高く数学や理科のセンスはあるが、コミュニケーションが苦手で、友だちとトラブルにならないよう会うことを避けている。子どもの特性を認め、力を伸ばすために、どうやって子どもにあった教育環境を整えればよいのか。(母親からの相談)

見えてきた課題

- ◆ 障害や病気のある子どもが、置き去りにされない教育環境や教育システムが求められており、特に、個々の障害や病気の特性に応じた柔軟な対応ができるように、その環境調整を担う存在が必要とされている。
- ◆ 障害や病気についての専門機関の相談や情報提供など、発達段階に応じて継続的な支援が必要である。

「発達障害」とは…

発達障害には様々な定義があるが、わが国の発達障害者支援法では、脳機能の障害であって、その症状が通常低年齢において発現するものと規定されている。具体的には、**自閉症**(主な症状は、言葉の発達の遅れ、コミュニケーションや対人関係・社会性の障害、パターン化した行動、こだわり、等である)、**アスペルガー症候群**(自閉症と同様の特徴があるが、言葉の発達の遅れがない)、**注意欠陥多動性障害**(不注意と多動・多弁と衝動性が特徴)などが含まれる。

◆ いじめだけでなく、その周辺問題(学校の対応、加害者と被害者の関係修復、転校等)やいじめから派生する問題(不登校、うつ病・神経症等)が重なって問題が複雑化・深刻化する

*いじめそのものの問題も根深いが、それに伴う学校の対応への不満、子どもだけでなく保護者も含めた加害者と被害者の関係性の問題もあり、学校だけでは解決が困難な状況にきている。

*いじめから不登校になる、うつ病や神経症になるなど、二次的な問題が起きており、子どもや学校だけの問題として済まない状況がある。

ホットラインの声から...

□子どもがいじめられ、円形脱毛症になり、1年間不登校の状態だった。現在は保健室や会議室に登校し、一人で自習し、時々先生が指導してくれる。最近、子どもが神経症になった。加害者の親の動きもあり、学校は「学校としては何もできない」という姿勢である。(母親からの相談)

□アスペルガーの子どもが小学校低学年のときにいじめられ、不登校になった。現在は中学生となり、フリースクールに通っているが、不登校になった当時は相談窓口やフリースクールの情報をもらえなかった。不登校の子どもについても学校と支援機関が連携し、対応してほしい。(母親からの相談)

見えてきた課題

◆学校で起きるいじめの問題は、学校が第一義的に対応する必要があるが、いじめに伴う様々な問題は学校と専門家・専門機関が連携した対応、学校に行くことが難しい子どもの居場所や家庭の外とのつながり作りなど、地域社会からのアプローチも必要である。

アスペルガー症候群とは...

知能と言葉の発達の遅れは無いが、コミュニケーションや対人関係・社会性に障害がある。行動がパターン化しており、興味や関心に偏りがある。